

令和5年度始業式 校長講話

皆さんおはようございます。校長の高橋です。春休みはどう過ごしましたか。充実したものになったでしょうか。それでは、令和5年度の始業式にあたって、お話をします。

昨年度の修了式では、「バッタを倒しにアフリカへ」という本を紹介し、グローバル人材とは、世界に向かって挑戦する人であること、今後は文理融合の時代が訪れ、科学的な視点を持たなければ、世界規模の課題は解決できないこと、自分が大好きなこと、課題をもって、これからの人生を歩んでほしいと皆さんに、伝えました。

先生になって生徒からよく聞かれることは、「なぜ先生になったのですか」ということです。現在は、「なぜ校長を目指したのですか」と聞かれます。そこで、今日は、皆さんの進路決定の参考になるように、なりたい職業について自分の遍歴を手短かに話します。

小学生の時は、先生に怒られることが多かったので、先生になろうとは思いませんでした。テレビ、ドラマ、アニメの影響が強く、その時夢中なものにころころ変わりました。警察官や刑事、プロ野球選手、アメリカンフットボール選手、コメディアン、落語家、プロボクサーなどです。この当時すでに漠然と会社勤めは向いていないかもしれないと考えていました。中学校に入学してからは、バスケットボール部に入部して、毎日練習に励みました。ラジオの深夜放送を聞くのが好きで、アナウンサーやディスクジョッキーに憧れました。また、バスケットボール部の顧問や担任の先生の影響もあって、中学校の保健体育の先生になろうと具体的に考え始めました。高校受験を迎え、志望する高校はバスケットボールの強い、国公立大学に入る可能性のある高校を選びました。高校進学後は、さらにバスケットボールにのめりこむことになりました。チームは都でベスト16

と、悲願の関東大会出場は果たせませんでしたでしたが、引退まで続けることができました。部長として、練習中指示を出したり、練習後反省したり、後輩を励ましたりしたことが影響し、自分には、対人的で、交渉が必要な職業、人に説明や解説や説得したりする職業が向いているのではないかと考えるようになりました。高校で受けた授業では、保健体育と英語が好きでしたので、高校の保健体育の先生、アナウンサー、外交官を将来の職業に考えていました。結局大学は私立の文学部英文学科に進学し、保健体育の先生は断念することになります。大学時代はバスケットのサークルに入り、母校でコーチをしていました。家庭教師で、中学生に勉強を教えることで、人に何かを教えることに関心を持ち、そしてバスケットボールの指導にもかかわれるということで、大学3年の冬に教職一本に絞り、高校の英語の先生を目指して、準備を始めました。6月に教育実習を終え、7月に採用試験を受験し、10月に東京都から合格をもらいました。

教員になってからは、英語の授業を英語で行い楽しく英語を学ぶことができるように授業を計画・実践しました。担任としてははじめのあるクラスづくりを心掛け楽しいクラス運営ができよう全力を注ぎました。そして、バスケットボール部の顧問として、部員の目標が達成できるように努力しました。毎日忙しく、大変でしたが、当時仕事に縛られている感覚はありませんでした。学校に行くことは毎日楽しみでした。同僚に恵まれていたこともあるかもしれません。生徒に寄り添い、何もしてあげられなくても生徒と一緒にいることが大切だと思っていました。やりがいも感じていました。最近でも、管理職にはなりましたが、自分に向いている職業に付けてよかったなど改めて感じます。50歳になって今までの自分の経験を東京都の教育に生かし、東京都の英語教育に貢献したいと考え、管理職試験を受験しました。都庁で2年間指導主事を務め、国際高校、桜修館中等教育学校の副校長を経て、杉並高校の校長に着任しました。校長になっても

皆さんと話ができる機会があるのは本当にうれしいし楽しいです。役職や立場が変わっても、先生として最もうれしいのは、生徒の皆さんが授業で英語がわかったり、好きになったりするのを実感できることです。学校行事で達成感を得たり、部活動で自信をつけたり、皆さんが充実した、満足感のある学校生活を送っているのを実感できることです。合唱祭や球技大会、部活動の大会や演奏会で皆さんが生き生きと競技や演技をするところを見て、改めてそんなことを感じました。

最後に、3年生はいよいよ、部活動や学校行事は最終段階を迎え、希望進路の実現に向けて準備が本格化しますので、頑張ってください。2年生の皆さんは、部活動や新入生歓迎にそなえて、学校行事や部活動の意中心として頑張ってください。年度当初に当たり、ハンセン病患者の治療に生涯をささげた神谷美恵子さんお言葉を皆さんに送ります。

「私は宇宙への畏敬の念に、このごろ、ひとしおみたされている。科学の武器を持ってさえ、その全貌を把握できないこの宇宙の中で、私たちは「意識」ある生命を与えられた。

この意識をもって宇宙を支えるものに賛歌をささげたい。

それをささげうる心が人間に与えられたことに感謝したい。

こういう広大な世界を、

小さな心で思い浮かべうることこそ

人間に与えられたおどろくべき特権であると思う」

私からの話は以上です。今年度もよろしく申し上げます。